

雜 錄

製鐵所銑鐵産額 八幡製鐵所で本年二月中に製造した銑鐵高は本所36,293噸、戸畑支所12,383噸、合計48,576噸にして前月に比すると378噸を増加して居る。

八幡製鐵所在庫内容 八幡製鐵所の鐵材在庫品は逐次増加し一時は16萬噸に達したが昨年未から漸次拂下げ現在では約12萬噸、二月十日現在は山型3萬噸工型溝鋼2萬噸、厚板1萬噸、丸棒3萬噸、平角鋼15,000噸、軌條15,000噸、難品1萬噸その他少量の鐵道省送りのレール若干である右の中十年以上経過のもの11噸五年以上同3,000噸で十年以上のは實際陸海軍省の不合格品が多く市場向ではない、これ等ストックには絶えず手入を行つて錆の出ぬやうして居る。

富士製鋼操業 大正七年資本金6百萬圓を以て創立されたる富士製鋼會社は大正九年春の財界大恐慌と共に12百萬圓の負債を生じて遂に事業を休止し以來安田、第一兩銀行を始め淺野總一郎、澁澤正雄氏等中心となつて鋭意内部の整理をなして居たが、今回債權者側も會社の將來を見越し12百萬圓中9百萬圓を棒消とし残額3百萬圓に對しては百萬圓の普通株2百萬圓の優先株を發行し多額債權者たる安田銀行が五ヶ年即ち大正十六年まで無利息据置を承認した外、更に事業資金として3十萬圓流動資金として第一銀行より必要の際條件取極め供給の約束を以て整理解決を告げたので愈本月末より資本金26十萬圓で主として八幡製鐵所より鋼片その他のピレットを東海鋼業拂下と同一條件の下に拂下げを受けてロール工場を新設經營する外、五月よりインゴットの作業を開始することに決定したが、この結果同社は一ヶ月20噸の生産を爲し漸次擴張する豫定である而し新重役として吉川雄輔、末兼要、澁澤正雄、淺野良三、金子喜代太氏等就任した。

鐵板關稅改正 日英協定稅率は三月十日を以て愈廢棄され同十一日國定稅率が採用されることとなつたが協定稅率廢棄の結果僅々二三分の關稅が一躍一割五分に引上げらるゝ鐵板に就ては協定稅率の關稅を課することゝなり政府は同十日左の如き鐵板の輸入稅に關する法律案を議會に提出した。

關稅定率法別表輸入稅表中第四百六十二號第四項甲の三(イ)の中 硅素鋼板(硅素重量が全重量の百分の一以上のもの並に同項乙の一(イ)及同項乙の二に掲ぐる物品の輸入稅は當分の中間輸入稅表に據らず別表に據る

附則本法は公布の日より之れを施行す

輸入稅表番號四六二 鐵 四板

「甲」金屬を鍍せるもの「甲」の三其他(イ)厚0.7耗を超えざるものゝ中硅素鋼板(硅素の重量が全重量の百分の一以上の物

每百斤 稅 率 30錢

「乙」乙の一 卑金屬を鍍したるもの

(イ)尋常のもの

同 稅 率 70錢

乙の二電鍍したるもの（波形と否とを分たず）従價稅率（一割八分）

漢冶萍借款成立 漢冶萍製鐵公司の事業資金借款は支那側代表來朝し政府及び銀行業者との間に往來して種々交渉中のところ今回愈々成立調印を見るに至つた、右金額は 850 萬圓であつて、政府が大藏省預金部より正金銀行を通じて融通するのであつて、その條件は次の如くである。

金額 850萬圓、利率 年6分、償還期間 20年、經由銀行 橫濱正金銀行、償還方法 漢冶萍鐵礦より八幡製鐵所に賣渡代金の一部を以て充當す、擔保 漢冶萍鐵礦。

獨逸鋼業カルテルの活躍 獨逸鐵及鋼工業者の組織せる新カルテルは賣値協定を爲さざるも内外市況に應じて毎月其製産高を調節せんとせり市況は最近稍々好轉し製産高割當率を増加し得べきが如きもカルテルは寧ろ保守的の見解を取り市場に於ける賣崩しを防止せんとするが如し尙仕上業者間にはカルテルの賣値決定問題に付了解ある如く孰れ此問題は副機關たる半製品板物線管建築鋼材業等の委員會又は協會の設置決定後に於て明にせらるべし。

支那釘需給狀況（大正十三年十一月二十五日附在上海帝國商務官橫竹平太郎）

釘の輸入 支那内地建築界の旺盛となるに従ひ年と共に釘の需要増加し其輸入數も年々増加の趨勢にあり今や其總額約30萬擔200萬兩を超過するに至れり試に最近五年間の輸入數量價格を示せば左の如し。

年次	數量 ^擔	價格 ^兩	年次	數量 ^擔	價格 ^兩
1919	300,475	2,173,190	1922	385,306	2,467,449
1920	346,790	3,061,914	1923	254,635	1,745,154
1921	237,793	2,079,809			

即ち1920年の財界好況時35萬擔300萬海關兩を突破せるも其後四圍經濟界の沈衰と共に需要減少し從て其輸入數量も減少せり更に最近五年間の仕出國を示せば左の如し（單位擔）

國別	1919年	1920年	1921年	1922年	1923年
米國	156,202	201,785	46,727	199,546	59,305
白耳義	—	4,292	42,830	43,812	62,990
獨逸	—	3,661	43,757	31,639	63,188
香港	61,451	40,673	65,028	58,053	49,58
日本	49,671	56,967	13,163	33,222	13,930
英國	14,825	20,429	29,258	27,940	15,611
加奈陀	19,39	24,124	6,87	—	7,132
和蘭	—	1,058	1,418	2,998	4,078
朝鮮	765	496	746	836	1,558
伊太利	—	—	2	595	2,63
瑞典	414	—	1,704	904	1,588
其他	9,514	2,143	4,268	3,324	3,083
總輸入	312,712	355,628	255,723	397,969	290,934
再輸出	12,237	8,838	17,939	12,163	36,299
純輸入	300,475	346,790	237,789	385,806	254,635

釘類の輸入先としては米國第一位にして大正十一年迄は約半額を占め白英日之に亞ぎしも歐戰後獨逸品の捲土重來顯著なるものあり殊に本邦品の如きは高價にして而も品質悪しく年々輸入減少しつゝある状態なり。

洋釘製造業 斯く年々多量の輸入あり且勞銀の低廉なる關係等にて支商は大冶に於て往年獨商の後援にて之が製造工場を設立したるが製鐵業に不練なる爲失敗に歸し又上海にても邦商及支商間に設立計畫せるものありしも原料鐵買付抄々しからざる爲計畫中途にして中止し洋釘製造廠としては僅に上海揚樹浦臨青路53號（建築用所謂ボート式の物は市内大小各鐵工場に於て製造し居れり）に上海公勤鐵廠あるのみ今同廠の内情を見るに資本金は約15萬弗（實際は23萬弗見當）にして生産能力は一日25樽内外尤も職工熟練せば一日50樽を生産し得る見込なり而して製造品種は1寸乃至5寸迄の洋釘なり。

釘製造業と將來 支那は前述の如く一箇年2百萬乃至3百萬海關兩の釘需要あり且鐵鑛の産多きより推して斯業の將來は必然發達するの氣運にあり然れども現在としては製鐵業の發達せざる爲原料たる線材を海外に仰がざるべからざること及製品釘の輸入税と原料の輸入税とが同じく従價の5%を徴收され海外釘と競争して不利なること等にて折角計畫したるものも調査半にして中絶し發達せざるものゝ如し、要は規模の問題にして大資本を投じ大冶より鐵鑛を持込み常地にて製鐵し而して製釘するが如き大規模のものなれば相當の利潤あるものと思はる尤も自己工場の動力の餘を使用し當地にて原料たる線材抛出物を買揚るか又は英米に良き取引先を擁して製釘せば小規模なりとも簡單なる本業に於ては利益あるものと思考せらる。

樺太炭坑作業狀況（大正14年2月23日締結せられたる日露條約文より抜萃）

(1) 作業者 ドウエ礦山 三菱會社は占領軍の爲に作業し居れり。

ロガトウイ礦山 スタヘエフ會社及三菱會社が合同事業として作業し居れり。

(2) 礦山の位置 ドウエ礦山 海に近きホストヴァアヤの流域に於てアレクサンドロウスク港の南約6哩、現に作業中水平坑は二、但し堅坑なし1923年の産額約5萬噸なり。

ロガトウイ礦山 海に面しアレクサンドロウスク港の南約10哩現に作業中の坑二、堅坑なし1924年の産額約3萬噸

(3) 専門家及労働者の數 ドウエ礦山専門家5、労働者約200。ロガトウイ礦山専門家3、労働者約150。

（上記數は夏季のものとする）

(4) 機械 ドウエ礦山に於ては小型機關車は石炭運搬の目的の爲に使用せらる。

ロガトウイ礦山に於ては機械を使用せず採掘及運搬は人及馬に依りて行はれ居れり。

(5) 建設物 ドウエ礦山より海岸に至る1哩強のトロツコ線及ロガトウイに於ける1/4哩弱の他トロツコ線を除き炭坑用には特殊の建設物なし。

(6) 輸出 ドウエ礦山の産額は占領軍及占領区域内の住民に依り消費せられ島外に搬出せらるゝことなしロガトウイの産額の約3萬噸は三菱及スタヘエフに依りて1923年に輸出せられたりとのことなり。